

「里山の維持再生ゾーン」の実現に向けて

しみんきょうどう
～市民協働による持続可能なまちづくりのモデルケースとして～

里山活動の大切さをPR

11月4日 市役所で第1回 SATOYAMA市民フォーラム

開発が中止となった、学研木津北地区において、都市部の持続的発展に必要な自然環境を再生保全する「里山の維持再生ゾーン」の実現に向けた取り組みを進めるなか、この地区における自然や文化といった地域資源を多くの方に知っていただき、またひとりでも多くの方に、里山での時間を楽しんでいたたくことを目的として、はじめて SATOYAMA 市民フォーラムをおこないました。

○さまざまな情報交換をしました

既に活動をおこなっている6団体が、日ごろの活動内容について紹介し、来場者と交流を図りました。



○あらためて里山の大切さを学びました

基調講演では、「『にほんの里 100 選』から見た里の魅力」について、京都学園大学教授(京都大学名誉教授) 森本幸裕氏から、また「カスミサンショウウオとともに暮らす里山の生物」について、名古屋大学大学院教授 夏原由博氏に講演いただきました。



日本の豊かな里山について様々な事例を紹介いただきました。



カスミサンショウウオが暮らす自然環境の豊かさについて紹介いただきました。

○日ごろの活動について紹介いただきました。

市民活動団体を交えたパネルディスカッションをおこないました。持続性に向けた課題などについて、各団体の実情や思いを意見交換していただきました。

市民の皆さんへ…

活動に参加したいなど、興味のある団体があれば、ぜひ学研企画課(☎75-1201)へご連絡ください。



～鹿背山の竹を活用した被災地支援も紹介～

午前中は、N P O 法人京都発・竹・流域環境ネットが取り組んでいる、震災復興支援の取組を紹介しました。宮城県東松島市の海苔養殖グループ「月光プロジェクト」の山内良裕代表や、広報 10 月号で紹介した被災地で頑張る女性福原佳代子さんを招きパネルディスカッション等をおこないました。

被災から立ち上がろうとしている生の声を来場者も熱心に聞き入っていました。



はじめての里山講座～第2回～ 冬の里山が意外に暖かいことをご存じでしたか？

今回のテーマは「焚き木～安全に火を扱う」です。アウトドア料理も体験できます。

とき 12月22日(土) 午後

料金 ひとり 500円(1回分 保険代込み)

定員 20人(先着順)

その他・大人から子どもまでが楽しめる内容になっています。

・里山保全のルールを守っていただきます。

・詳細は事前に鹿背山元気プロジェクトから連絡があります。

申込問合 12月15日までに氏名・参加人数・住所・電話番号を、E-mail または Fax で下記へ。

E-mail : nnnet@mbox.kyoto-inet.or.jp Fax075-256-5055(中村)